

会報 第137号
発行日 平成28年3月1日
発行・編集 V・G 概輪
代表者 大岡成一
http://web1.ibj.co.jp/~kirin

V.G 概輪だより

わがまち紹介

水運栄えた面影を

今も色濃く残すまち

高槻市 唐崎

平成28年2月18(木)
唐崎中の港製器工業株式会社を訪問しました。会社の案内説明は藤本次長さんにお世話になりました。見学には各部門の方々にもお世話になり、本当に有難う御座いました。

高槻市唐崎地区

淀川と芥川が合流するところで、広い川原を利用して放牧風景が見られた地区です。

この唐崎の「カラ」は別に「辛崎」家から用いられた、中国または朝鮮半島を表し、貿易港や交通の寄港地の名に多く見られます。

「大阪府全誌」にも古代の唐崎の停泊した河岬に由来するとあり、三島一帯の地に住みついた秦氏、呉氏、辛(韓)矢田部、新羅人等々の大陸から渡来氏族に係している地名と言えます。

唐崎のような淀川沿岸の沖積地や中洲自然堤防は、古来より牛馬の放

牧に利用されてきました。建長5年の近衛家所領目録の「庄務本所進退所々」に撰津国沖牧が見えることから、この地は9世紀頃の庄園増大期から撰関家(撰政・関白に任ぜられる家柄)の私牧のひとつとして、諸国から献上された馬牛が飼育され、兵馬や用役牛として使われた。



40年前の唐崎の放牧風景

江戸期になると、安定した社会情勢の中で淀川水運の一拠点として、脚光を浴びるようになる。関ヶ原戦後、江戸幕府

は京都・大阪を結ぶ淀川物流体系を把握するため、過書船の制(許可を受けて淀川を上下して貨物、乗客を運ぶ船)を設けます。唐崎浜は南の三島江浜とともに過書座(過書船関係の事務を

管掌した役所)の荷問屋(諸物品の間屋業)として、年貢米の中継地となり、島上・島下の年貢米輸送を一手に行うことになりました。さらに高品質の貨物輸送も扱います。

まず、大阪から来る品物は金肥(油粕・糠粕など)、塩、木材、穀物、対馬砥などで、大阪へ送る品物は綿作物、煙草、油、竹皮などの農産物、富田の酒などでした。

江戸中期になると、大阪への荷物に杉粉(綿香の原料)、青物類、瓦などの高品作物が加わり、幕末になり上りの天草(原料)、下りの寒天(製品)が出現するようになる。唐崎浜は「富田の外港」

といわれるように、富田・茨木の町々及び安威川、玉川流域の村々と大阪・京都を結ぶ高品流通の集散地であったといえます。

洪水の多かったこの付近では、水や湿気から家を守るために段倉と呼ばれる家屋が多く建てられた。こうした建物は少なくなつたものの、今も見る事ができる。昭和25年ごろから地

元の乳牛農家が組合を設け、この付近の淀川河川敷で乳牛の放牧をおこなっていた。その後、田畑に倉庫や製造工場が多く進出し工業地帯となつて行きま

港製器工業株式会社

昭和32年の創業、土木建築用金物・船舶の荷役用金物からエクステリア用金物にいたるまでの幅広い金物製品の企画から販売のメーカーです。

まず何よりも品質第一と考へ、環境の目まぐるしい変化にも迅速に対応できる企業体制の確立こそが大事とされてきました。

そのためにも広範なニーズを正確に捉え、常に新しい製品の研究・開発に努め、企画・設計・製造・販売を一括する力をもつて取り組んでおられ、鉄・アルミ製品の企画・設計・製造・販売を一括出来る強みをお持ちの会社です。蓄積してきた知識や経験を生かして多角化を進めておられます。

東日本大震災の復興支援として、被災児童に

学習環境を整えるために学習机と椅子を送る活動を関大の学生とされました。

工場見学の感想

終始 経営理念をモットーに皆さんが仕事をしておられる現場を見せて頂きました。

東北被災地向け吊天秤の制作ビデオを見せて頂きました。被災復旧への熱い思いや、全社一丸となつて成功させたことに感激した。

日本のトップを担う分野の研究・製造をしておられることが判りました。貨物車・カーフェリー・コンテナ等を見ても、これから止め金具も注視したいと思えます。



2016年4月度行事予定

“平成28年 VG概輪 総会・親睦会”

日：2016年4月20日(水曜日)
場所：高槻森林観光センター 研修室
集合場所：JR高槻駅前 西武デパート西側
集合時間：9:40 専用バス出発：9:45
詳細は書面にて各人に連絡致します。
全員参加下さい。

2016年3月度行事予定

“京都市有数のターミナルで繁華街・商業施設が集まっているまち”：下京区

日：2016年3月17日(木曜日)
集合場所：IR京都駅1階中央改札出口 時間：9:40
内容：龍谷ミュージアム見学
その他：1) 入館料500円/人
2) 小雨決行です。